



カレッジ college news だより

2005 November.

vol.

8

道民カレッジ受講生数
17,031人(10月31日現在)

「道民カレッジ博士号を授与されて」

ほっかいどう学コース 道民カレッジ修士
江別市 関口 義幸氏



この度、道民カレッジの「博士認定証」を頂き、一つの達成感を感じています。私もプロを自認して勤めた35年の現職期間を終え、定年退職の日には一人前の人間として「多くの事を学ぶことができた」という充実感がありました。しかし、退職して数か月を過ぎた頃、「ひょっとして私は一つの職業の事しか知らない未熟な人間だったのではないかと、思い始めたのです。

そんな時、道民カレッジに出会いましたが、手帳への初めての単位スタンプは、平成13年11月の北海道立埋蔵文化財センターでの「考古学セミナー」の一単位でした。しかし、古代史には無縁の仕事だっただけに、1万年を超える縄文時代の話は、遥かなる古代のロマンに想いを馳せるものでした。1年のカレッジ受講後、「私には知らない事が多すぎた」との思いに至ったのです。

私は、年間を通じての受講に際し、何回かの体験型受講を入れるようにしています。例をあげると、毎年、北海道開拓記念館で行われる縄文土器造りや石器造り講座。美瑛市にある林業試験場では、二泊三日のフォレストガイド講習や緑化技術基礎講座。美瑛町にある国立大雪青年の家での「環境学習セミナー」では、近郊の農家に行き、立ち木の伐採や薪割り、昼食をはさんでの農作業体験。白老町で行われた「地場産品でフルコース」という、王子レストランのシェフによる白老牛の本格的フランス料理講習等々。また、そんな場でカレッジ同級生との和気藹々とした学習体験は、楽しいものです。

大袈裟な言い方ですが、道民カレッジの勉強は、私の命を助けてくれました。(例えば、札幌医科大学の医療健康講座)。最先端の現代医学で解明された話を聞く度に、身体的に心当たりがあり、自ら摂生した結果、糖尿病や高血圧症の数値が改善されたのです。このように私は、医療関連の連携講座に出席するたびに「長生きという贈り物」を頂く感じがするのです。

北海道も財政事情の厳しい現実があります。しかし、元気なお年寄りの多い自治体は、健康保険医療費の支払いが少ないと聞きます。道民カレッジの発展は、将来の医療費の節減になるのです。これからも末永く「道民カレッジ」が存続し、多くの博士が輩出される事を願っています。その方々が地域の知恵袋となり、北海道の発展のために寄与することでしょう。

道民カレッジの現況

(平成17年10月31日現在)

今年度は、前期の連携講座がガイドブック掲載分で467講座に、その後の申請数を合わせ832講座に上っております。特に、ほっかいどう学コース、能力開発コース、健康・スポーツコースでの増加が多くなっています。後期ガイドブックに掲載した講座数を合わせると1,307講座となり、既に昨年度の講座数を大きく上回っています。その後も連携講座の申請が続いておりますので、ホームページでご覧の上、ご利用ください。後期ガイドブック掲載分は「トップページ」から、掲載以外の連携講座は「連携講座の内容」から検索してください。

◎平成17年度前期連携講座の集計 (全832講座)

ほっかいどう学コース 66講座 能力開発コース 185講座 環境生活コース 124講座
健康・スポーツコース 121講座 教養コース 303講座

◎称号取得者数 学士93名 修士38名 博士24名

◎管内別学生数 (17,031名)

管内	石狩	渡島	檜山	後志	空知	上川	留萌
受講生	6,153名	781名	1,021名	1,195名	859名	1,024名	643名
管内	宗谷	網走	胆振	日高	十勝	釧路	根室
受講生	490名	1,340名	397名	999名	486名	880名	763名

称号取得者等「学習成果活用セミナー」を開催しました！

今年度は、これまで学習してきた成果を道民カレッジ称号取得者及びモニターとして生かすために、実践的な研修を行う目的で、9月20日（火）に、かでの2・7ビルで実施しました。

「道民カレッジモニター」とは、「広く道民の意見や声を聴き、道民カレッジの運営に反映させるため、道民カレッジ事務局に道民カレッジモニターを置き、道民と一体となった道民カレッジ事業の推進を図る。」という趣旨から、称号取得者に加え、6講座程度のレポートを提出した方に依頼し、承諾を得た方の96名に「道民カレッジモニター証」を送付しました。

今回の「学習成果活用セミナー」には、57名の申込がありました。札幌市内の方々をはじめ、遠くは雄武町や北見市、音更町、函館市からの参加もありました。

研修内容の紹介をします。基調説明として、道民カレッジ事務局の武田から「道民カレッジ充実期の役割～『ほっかいどう学』の推進と人材育成～」と題し、道民カレッジ称号取得者やモニターに期待することを説明しました。

講演は、北海道医療大学助教授の長谷川聡氏から「座学から実践へ～生涯学習の拡大に向けて～」と題し、道民カレッジ等で学んだことを生かし発展させるための方法について考える内容のお話がありました。先生は、「私が近ごろ学んだこと」として、NGO活動、中高年の生きがいづくり支援活動、地域文化活動から紹介され、「学びのレベル」について浅から深への方向性が示されました。また、「実践を阻む心理」についても6点にわたって紹介され、最後に「実践知のまとめ」を4点示されました。



昼食を挟んで、午後からは、演習と協議を行いました。

演習は、昨年度に引き続き、北海道立生涯学習推進センター研修調査課主査の中川章二氏が務め、「学習成果を生かすためのスキルアップ～学習活動を活性化するために～」と題し、称号取得者やモニターとして幅広い活動をしていくための実践的なトレーニングを行いました。各グループで協力し、「漢字づくり」（偏と旁の組み合わせ）と「席順推理」（情報カードで円卓の席を予測する）を行いました。

最後に行った協議では、8グループに分かれ、1あなたができることは？ 2「道民カレッジ」事業への希望は？ 3モニターとしての事務局への要望は？ の3点について、「道民カレッジモニター」アンケート調査結果を参考に話し合いを行いました。1については、活動したい方の意向を確認しモニターの得意分野を登録する、自分のできる範囲で行う等の意見が出され、中には町内会でPRするという方もいて、頼もしく感じました。2については、主に連携講座について、地方でも多くの機関や団体と数多く連携することが内容の要望とともにたくさん出されました。3についても、地方のために大学放送講座やインターネット講座また衛星放送講座等で札幌と同じ講座が受講できるようにすること、モニターへの情報コーナーの検討、ガイドブックの発行時期やホームページ検索の工夫、大学放送講座への要望、道民カレッジ生としての割引制度（受講料や交通費等）等々の要望が出されました。

これらの意見や要望等につきましては、道民カレッジ事務局だけでは実現しにくいものもありますが、道民カレッジモニターや学生の皆さんとともに、できるところから一つずつ改善していきたいと考えております。そのためにも、皆さんのボランティア活動等のご支援、ご協力をお願いします。



「ほっかいどう学」大学放送講座 必修単位の取得方法について

1 「ほっかいどう学」大学放送講座とは

「ほっかいどう学」の定義（平成16年9月15日に道民カレッジ運営委員会からの提言）

道民自身が、北海道（あるいは道内のそれぞれの地域）について、現在を見つめ、過去を知り、未来のあり方を考える協働の学びである。この学習によって、道民としてのアイデンティティを確立し、主体的に学ぶことによって培われた知識と能力を生かして北海道づくり・地域づくりに参加する学習である。

テレビで行う大学放送講座では、北海道地域を対象とする既存の学問の分野における成果をもとに、それらを地域研究として総合化し、より深めていこうとする学問としての「ほっかいどう学」を主体的に学習しようとする道民の意識づけやきっかけづくりとしております。

2 テレビ視聴及びレポート提出について

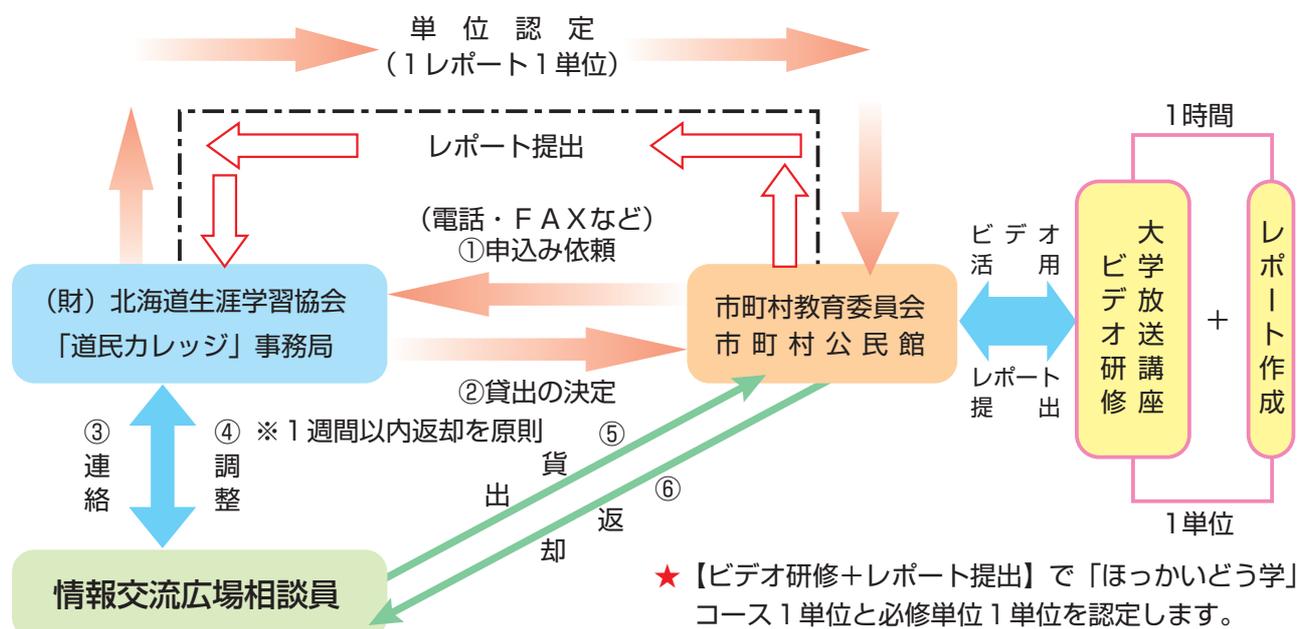
「ほっかいどう学」を中心とした大学放送講座は、課題意識や地域づくりへも関わった内容となっております。学習テーマについても、北海道への興味や関心が持てるものを設定しております。「ほっかいどう学」を学ぶ基礎ともなることから、テレビ視聴とレポートの提出で必修単位を取得しませんか。称号取得（6単位）に必要なことはもちろん、1度取得した単位は称号申請まで有効です。

3 「大学放送講座」放映ビデオの活用と貸出し方法について

本年度から、「大学放送講座」放映ビデオを道内各市町村教育委員会へ貸し出すこととなりました。「大学放送講座」の終了後、1月～3月の期間を予定しております。

【録画ビデオの貸出し方法】

- 道民カレッジ事務局は、市町村教育委員会から大学放送講座ビデオの借用依頼があった場合、ビデオの貸し出しを実施します。是非、市町村での講座の一貫としてご活用ください。



- 道民カレッジ生から情報交流広場での大学放送講座のビデオ視聴の申込みがあった場合は、ビデオレファレンスコーナー（かでの2・7・9階）で上映します。（12月中旬～3月）

「ほっかいどう学」出前講座の今後の予定について

市町村	テーマ	実施日	会場	問い合わせ先
由 仁 町	家庭教育の充実をめざして	12月11日 1月下旬	由仁町文化交流館 「ふれーる」	由仁町教育委員会 0123-82-2000
帯 広 市	地域の価値、再発見	12月18日	と か ち プ ラ ザ	帯広市教育委員会 0155-22-7915
中富良野町	文化的景観を生かしたまちづくり	1月26日	中富良野町公民館	中富良野町教育委員会 0167-44-2204
七 飯 町	地域で子どもを育てる	1月29日	七飯町文化センター	七飯町教育委員会 0138-66-2066
士 幌 町	山村留学と地域づくり	1月～2月	士 幌 町 公 民 館	士幌町教育委員会 01564-5-4732 役場企画課(生涯学習推進担当) 01564-5-2211
長 沼 町	①「食と農業を考える」 ②長沼農業の将来的展望を考える ③農村景観の素晴らしさを考える	2月 1日 2月 8日 2月15日	長 沼 町 民 会 館	長沼町教育委員会 0123-88-2111

新規 道民カレッジ称号取得者一覧

(平成17年3月3日～10月31日)

【道民カレッジ博士】 11名

林 君雄(札幌市)、鈴木 久美(札幌市)、高田 満穂(札幌市)、佐藤 一雄(江別市)、
橋 宜由(鹿部町)、中村 節子(札幌市)、池本 隆一(札幌市)、喜多 馨(江別市)、
逢坂 利昭(札幌市)、蛭川 剛之(江別市)、関口 義幸(江別市)

【道民カレッジ修士】 12名

関口 義幸(江別市)、菅原セイ子(札幌市)、佐藤 一雄(江別市)、五郎部 勇(札幌市)、
松田 仁明(釧路町)、磯部 光宏(札幌市)、佐々尾雅志(札幌市)、山吹 英男(音更町)、
近藤 興磨(札幌市)、藪谷 義雄(帯広市)、飛谷 昭一(旭川市)、豊田カヨ子(札幌市)

【道民カレッジ学士】 34名

五郎部 勇(札幌市)、藪谷 義雄(帯広市)、後藤 馨(札幌市)、深畑千恵子(札幌市)、
穴戸 隆好(留萌市)、近藤 興磨(札幌市)、豊田カヨ子(札幌市)、菅原セイ子(札幌市)、
高橋 保昭(江別市)、永原 清(札幌市)、船田 公正(札幌市)、本間 孝(江別市)、
斉藤 淳子(札幌市)、新村 祐吾(札幌市)、齋藤 正保(札幌市)、渡部 常雄(札幌市)、
池本 隆一(札幌市)、古谷 健一(音更町)、矢野 進(帯広市)、高畑 司(札幌市)、
飛谷 昭一(旭川市)、蛭川 剛之(江別市)、小中出努子(札幌市)、平石 修(札幌市)、
熊谷 ゆき(札幌市)、郷原 康一(札幌市)、斉藤 和夫(札幌市)、松浦 数義(札幌市)、
鈴木 久美(札幌市)、永井 廣(石狩市)、荻野 貞範(千歳市)、佐藤 隆(札幌市)、
福地 好正(旭川市)、酒井 清美(湧別町)

カレッジだより Vol.8

平成17年11月発行

編集・発行 道民カレッジ事務局

財団法人 北海道生涯学習協会

〒060-0002

札幌市中央区北2条西7丁目かでる2・7ビル9階

TEL(011)231-4111(内線36-343) FAX(011)281-6664

URL <http://www.hsgk.jp/college/> Eメール college@hsgk.jp

